



こすもスマイル



発行／小林市立病院
地域医療連携室

16号

平成27年11月4日発行

～事業管理者のあいさつ～



平成12年7月1日、鹿児島大学より外科部長として着任し早や15年が経過し、医師としての経歴の約半分を当地で過ごしたこととなりました。同22年3月1日には事業管理者を拝命いたしましたが、今日まで多くの方々の御指導、御協力により大過なく職務が継続できましたことに、改めて心より感謝申し上げます。

御承知のように医療を取り巻く環境は大きな変化もなく、今後は超高齢化社会に対応するためさらに厳しい状況へ向かうと思われま

す。医師だけに留まらず現場のスタッフ不足は深刻で、増大するニーズに応えるべく介護も含めた確固たる「地域包括ケア」の整備が急務であることは言うまでもありません。これまで、当院は救急と入院医療に特化することでその存在意義を示すべく職員一同で努力して参りました。しかし医師不足は依然として解決せず、またその他のスタッフ充足も見通しが立っておらず、変貌する地域医療に対し、今新たな対応を迫られています。平成25年6月に開設した回復期リハ病棟は、在宅医療や介護へのスムーズな移行の一助となっているものの、在宅復帰率、対象患者の重症度および平均在院日数のハードルがさらに厳格化され、急性期病棟堅持がより厳しくなっています。現在、同病棟を地域包括ケア病棟へ移行する準備中ですが、残念ながら看護師不足のためその完了時期は未だ不透明のままです。これに対し、今春院内保育所を開設し、薬学部学生と看護学校生への奨学金を整備しましたが、同じく今春開校した小林看護医療専門学校の卒業生に大きな期待を寄せているところです。

さて、地域の医療機関および介護施設とのより綿密な連携構築を目指し、今年10月より退院調整看護師を増員しました。当院地域医療連携室もその機能をさらに充実させ、皆様のご期待に沿えるよう今後も病院運営に努力して参ります。これからも引き続きご理解とご支援を賜ります様、宜しく願いいたします。

小林市立病院 事業管理者 坪内 斉志

理 念

「安心、安全で信頼される病院を目指します」

【基本方針】

- ◎ 西諸の中核病院として、地域の医療機関と連携し、高度な医療を提供します
- ◎ 職員一丸となって、迅速な対応とチーム医療で、安全な医療を提供します
- ◎ 誠実かつ真摯(しんし)な姿勢で日々研鑽(けんさん)に努め、信頼される質の高い医療を提供します
- ◎ 自治体病院として、平等で心が通い合い、安心できる快適な療養環境を提供します
- ◎ 患者様と家族の満足を追求し、プライバシーの保護をはじめ患者様の権利を尊重します



診療部紹介

今回は

消 化 器 外 科 腫 瘍 外 科

です。

しばらく前、youtube で小林市の PR 動画「ンダモシタン小林」が話題となっていました。小林市の美しい風景と優しい方言を活かした動画で、お金や特殊な技術に頼らずそれでいて視聴者をアツと言わせる結末です。製作された方は小林市出身の電通マンだそうで、さすがクリエイターだと思いました。「てなんど小林プロジェクト」という企画の一環だそうですが、以前からユニークなポスターが注目されていました。私事ですがポスターの展示会を見に行ったり、絵葉書をもらうために妻に市役所に並ぶようお願いしたりと大ファンだったので、ここにきて全国区で話題となってうれしい限りです。もともと宮崎県民は PR が下手なところがある印象ですが、その中でもマイナーな小林市がこれらのようなキラリと光る手法を発揮できたというのは本当に素敵なことだと思います。



さて、2015 年 6 月をもちまして鹿児島大学第一外科から赴任されてきた吉満工平先生が転勤となり、坪内斉志事業管理者、徳田浩喜院長、島名昭彦医長、泊賢一郎の 4 人体制となりました。手術症例に加えて肺炎や心不全などの内科疾患なども担当することが多くなり、少人数での対応のためにご紹介いただく先生方にはご不便をおかけすることが多いかと思いますがご容赦いただければと思います。「てなんど小林プロジェクト」のごとく、キラリと光る手法で大学病院の派遣や研修医に来ていただける病院を目指したいと思います。

10 月より手術日の変更に伴って外来日が変更となっております。月、木が定例の手術日、それ以外の午前中が外来日となりました。ご迷惑をおかけいたしますが、ご配慮いただければ幸いです。今後ともよろしくお願い申し上げます。

消化器外科腫瘍外科 泊 賢一郎

今回のお花

小林華道連盟より

毎週すばらしいお花をいただいております。



看護部紹介

今回は

外 来

です。



今回は、外来部門を紹介します。当院の外来診療は、一般外来（内科・消化器外科・腫瘍外科・救急科・総合診療科・泌尿器科・透析・整形外科）5科があり、さらに循環器内科（毎週火曜の午後から水曜日終日まで）呼吸器外科・心臓血管外科（1回/月）神経内科（毎週木曜日）小児科（毎週金曜日）の非常勤医師が診療されます。

外来の看護師は16名で、経験年数10年以上の経験豊富なスタッフで構成され、各診療科の特徴に合わせた看護サービスの提供を行っています。また、感染管理認定看護師と救急看護認定看護師2名が所属し、外来での取り組みから院内全体の専門的活動の発信につながっています。認定看護師の存在で、外来看護師の研修に対する動機づけとなり日々自己研鑽に努めています。

今回の外来の部門紹介は、外科の内視鏡室と総合診療科についてご紹介いたします。

外科における内視鏡検査は、毎年約1000～1300件の検査を実施しています。症状のある方や健診後の再検査・手術前の術前検査など検査目的はさまざまです。上部消化管出血では緊急内視鏡を行い内視鏡的止血術の介助や異物除去など緊急性のある事例にも対応出来る様に、消化器内視鏡認定技師を中心に人材育成をおこなっています。また内視鏡検査は苦痛や不安を伴う検査でもあるので、わかりやすい説明を行い不安の軽減と安全な検査の実施を目標にスタッフ一同頑張っています。現在、臨床工学技士も内視鏡介助業務に加わり、より良いチーム医療提供を目指しています。

総合診療科は現在救急専門医師と宮大の救急科医師が担当しています。紹介状の持参がなく予約外で来られた患者さんの診療を行っています。どの科を受診していいかわからない場合、まずは総合診療科で診察して頂き各科専門医師の診療が必要と判断されれば各科専門科へ紹介しスムーズな外来診療に努めています。

これからも、患者さんが安心できる地域医療の提供のために、一層地域の皆さんとの連携を深めていきたいと考えておりますので、ご指導とご協力をお願いいたします。

外来師長 久土 和子



comedical department introduction

今回は

臨床工学室

です。



はじめまして、市立病院臨床工学技士の南村英次です。出身は宮崎市で、大学卒業後小林に移住して早3年目になります。ようやくフランス語のような諸県弁に耳が慣れてきて、“患者さんとよか語りがでくごなったな”と最近言われるようになりました。西諸地区の医療に貢献にできるような立派な技士になろうと、先生や先輩方の指導の下で、昼夜勉強に励んでおります。今回、そんな私の所属する臨床工学室について、皆さんにご紹介させていただきます。

私共、臨床工学技士は、医療機器の操作および保守管理を行うことを業とされています。急激に高度かつ複雑化する医療機器は、不適切な管理を行うと時に凶器となることもあります。その安全を確保する為にも我々のニーズは年々と高まり、当院では、現在3名の臨床工学技士で夜間や休日も対応できるように、24時間の待機体制で勤務しています。

当院の主業務は、1) . 血液透析療法を含む各種の血液浄化療法 2) . 高気圧酸素療法 3) . ME 機器管理で、その他に手術室の業務、内視鏡業務、呼吸療法業務に学生実習の指導や外部講義等も行っています。また、地域施設対象のME 機器関連の勉強会を主催し、当院で毎月第4火曜日に行っており、原則、西諸地区施設の臨床工学技士の在籍する施設を対象に、当院が保有する医療機器の貸し出しも行っています。



大規模病院の臨床工学室とは違い、単に医療機器の操作および保守管理のみの業務に固執せず、透視室や手術室、内視鏡室などの検査・治療における診療の補助行為や、患者指導や相談などにも医療スタッフの一員として幅広く携わっております。当然ながら、専門性に加え幅広い知識と技術力が求められるために、カンファレンスやミーティング、症例検討会や勉強会・学会等へ積極的に参加し、常に質の向上に努めています。

医療機器の発展は著しく、今後ますます我々の業務は拡大していくと思われま。これからも、西諸地域の臨床工学室として、より安全で質の高い医療に支援できるように取り組んでいきたいと思。当院来院の際または、医療機器に関するお問い合わせはなど、遠慮なくご連絡ください。

小林市立病院 ME センター 0984-23-8237 (直通)

臨床工学室 南村 英次

MERS対応訓練

7月28日当院にて、小林保健所、西諸広域消防本部と合同でMERS対応訓練を行いました。

訓練の流れは韓国から帰国した40代男性が、帰国後10日目に38.5℃の発熱があり、MERS患者と接触した可能性があるとして想定。疑似症患者本人が小林保健所へ連絡したところから訓練が始まりました。

当院 小会議室を自宅と仮定し、各関係機関が連絡を取り合って小林市立病院へ搬送。病院到着後は二次感染防止のため、診察室、病室への移動などの手順を詳細に確認しました。

今回の訓練を通じて、各自の役割や各機関との連携について確認でき、大変有意義なものとなりました。



- ① 疑似症患者から連絡を受けた小林保健所の職員が患者自宅にて面接。
面接中に呼吸苦の増悪があり消防本部へ救急搬送の要請。



- ⑥ 放射線技師が医師の指示によりポータブル装置でレントゲン撮影。フィルムは感染防止のためビニールで覆ったものを使用。



- ② 救急搬送の要請を受け、防護具を着用し患者自宅に救急隊が到着。状況確認後、小林市立病院に受け入れ要請。



- ⑦ 感染症室へ入院決定。アイソレーターへ移乗しプライバシー保護のためシートで覆いながら移送。エレベーターは専用運転で使用。

※ アイソレーターとは接触感染を防ぐための搬送用具で、写真は車イス型を使用しています。



- ③ 小林市立病院へ受け入れ決定。院内では連絡体制を整え、スタッフに周知。外来感染症室へ受け入れ準備完了後、来院患者の誘導を開始。



- ⑧ 感染症室へ到着。6時間が経過した設定でMERSの検査結果が陽性と判明。高次機能医療機関への転院が決定する。



- ④ 救急車到着。患者を感染症専用入り口から感染症室に受け入れ。
担当医師は救急隊より状況を確認。



- ⑨ アイソボットを使用した転院搬送。
〔今回の訓練はここまで行いました。〕

※ アイソボットとは接触感染を防ぎながら搬送できる担架です。



- ⑤ 指示された検体を看護師が採取する。保健所職員は回収容器を開けた状態で受け取り、封を閉める。
MERS 検査結果は6時間後。



新規医師紹介

イジュウイン トシロウ
伊集院 俊郎



プロフィール

- 診療科 整形外科
- 趣味 焼肉 ○特技 柔道



H27年10月から小林市立病院 整形外科に赴任しました、伊集院俊郎です。

鹿児島県曾於郡財部町出身、鹿児島大学卒業、卒後5年目です。9月までは鹿児島県鹿屋市のおぐら病院で勤務していました。

鹿児島大学勤務時代に9ヶ月間、月に2回小林市内の病院で勤務していましたので小林にはご縁があるようです。その際は当直外来勤務で食事に出ることはありませんでしたが、小林は肉、魚、果物と美味しいものがたくさんあると聞いていますのでこれからが楽しみです。

仕事については、病院のシステムに慣れるまではナース、コメディカルの皆さんにいろいろとご迷惑をかけることと思いますが、体力には自信がありますので、できることを着実にやっていきたいと思えます。何かありましたらなんでも言ってください。これからよろしくお願ひいたします。

地域医療連携室からのお知らせ



持ち主を探しています!!

H27年9月1日より当院に置いてあります。心当たりのある方は地域医療連携室にてお預かりしていますので、下記の連絡先までご連絡下さい。お待ちしております!!



外来診療日変更について

9月にお知らせいたしましたが、10月5日より消化器外科・腫瘍外科の診察日が変更になりました。外来担当医表を同封いたしますのでご参考ください。

連絡先 小林市立病院 地域医療連携室 TEL 0984-23-8225 (直通)
FAX 0984-23-8226

編集後記

コスモスの花や木々の葉が色づき、秋を感じる今日この頃です。前任の看護師からバトンを受け、早6ヶ月が過ぎようとしています。慣れないことも多々ありご迷惑をおかけする場面もあり、地域医療機関および福祉施設の皆さんには大変お世話になっております。

10月から人員が増えて退院調整看護師が2名になりました。患者さんが安心して治療、療養できますように医療ソーシャルワーカーや多職種と連携を図り、地域医療介護支援につなげていくために努力していきますので、今後ともご意見、ご指導よろしくお願ひいたします。



退院調整看護師 岩田 まり子

